山田寅次郎 オスマン倶楽部

OTTOMAN CLUB 2020

アジアとヨーロッパの文化に
オスマンというエッセンスが加わり、
魅力的な文化が誕生した。

いにしえの人々が築いた文化は、21世紀になっても斬新で、
私たちの心をオスマンへと強く導いてくれます。
本年度も山田寅次郎と一緒に「好奇心の扉」を開き、
研究を深めたいと思っております。

和多利月子

挿絵 土耳古畫觀より

山田寅次郎　やまだとらじろう（1866-1957）上州沼田藩・家老職の家の次男として誕生。15 歳、茶道宗徧流山田家の養子になる。東京薬学校（現・東京薬科大学）卒業後、語学を学ぶ。幸田露伴・尾崎紅葉、福地桜痴など文化人と交流。日本初のタウンページ「東京百事便」を発行。オスマン帝国軍艦エルトゥールル号海難事故の義捐金を届けにオスマン帝国へ。皇帝アブデュルハミト 2 世から命を受け、日本語・日本文化を青年将校に教える。その後、日本美術品を扱う「中村商店」を開く。オスマン帝国を訪問した伊東忠太などのサポートをした。日露戦時、日本政府の依頼でボスポラス海峡近くから「バルチック艦隊」の動静を見張る。イスタンブルに 10年滞在。日本に帰国後、製紙会社設立し事業家として活躍後、57 歳、茶道宗徧流八世家元襲名。

WATARI-UM
The Watari Museum of Contemporary Art

ワタリウム美術館
150-0001 東京都渋谷区神宮前 3-7-6　Tel:03-3402-3001 Fax:03-3405-7714 E-mail: order@watarium.co.jp　http://watarium.co.jp

TORAJIRO

オスマン倶楽部 2020　会員募集 全7回 トークプログラム

特別講演 建築家・ブルーノ・タウトもトルコを愛した一人。ドイツからブルーノ・タウト研究第一人者、シュパイデル博士をお招きし、今まで語られなかった貴重なお話をしていただきます。（英語講演・日本語通訳）

1　ブルーノ・タウト、トルコでの日々 1936-1938年　1月31日（金）2020年 19:00〜20:30

ブルーノ・タウトとその妻エリカは3年半の日本滞在の末、1936年10月5日に船で日本を発った。トルコで何が待っているか、全く想像もつかなかった。
1936年11月10日、イスタンブルに到着したタウトはすぐに仕事に取組み始めた。10の学校・大学そして自邸を含めた住宅を数件設計した。

講師：マンフレッド・シュパイデル博士 まんふれっど しゅぱいでる

1938 年 ドイツ・シュトゥットガルド生まれ。1973 年博士論文「人工環境についての記号論的考察」にて博士号取得。1975/76-2003 年 アーヘン工科大学教授（建築論）。
2007 年ワタリウム美術館「ブルーノ・タウト展：アルプス建築から桂離宮へ」監修。1988-2019 年ブルーノ・タウトに関する研究・出版活動を行う。

ケマル・アタチュルク葬儀の祭壇
アンカラ、1938年11月15日
タウトの生涯で最後のスケッチとなった
ブルーノ・タウト 桂離宮とユートピア建築 2007年
ワタリウム美術館カタログより

2　オスマン美術に見られる東洋　3月6日（金）19:00〜20:30

オスマン美術には日本美術にも共通する東洋的要素が見られます。中央アジアの文化圏と繋がりのあったトルコ美術には、
中国美術をとおして日本美術との共通点が垣間見えます。今回はオスマン美術のなかに見られる日本美術との繋がりをお話しします。

講師：ヤマンラール水野 美奈子 やまんらーるみずのみなこ　元龍谷大学教授　NPO日本トルコ交流協会代表・国際トルコ美術史学会常任理事

1944年東京生まれ。慶應義塾大学文学研究科修士課程修了、イスタンブル大学にて文学博士号取得

3　オスマン朝のワクフ 助け合いのお賽銭箱　4月3日（金）19:00〜20:30

分かち合うことは美徳。そんな思いから皇帝や官僚、一般の人びとに至るまでワクフという形でモスク、マドラサ、図書館、病院、ハマーム、
キャラバンサライ、橋、市場などの公共施設を作ってきた。モスクや橋のたもとに置かれたサダカ・タシも分かち合いのお賽銭箱であった。
日本のお賽銭箱と違うのは困っている人たちはそこからお金を持って行けたこと。この助け合いのお賽銭箱はオスマン社会のセイフティネットワークとなった。

講師：下山 茂 しもやましげる 東京ジャーミイ　広報／出版担当

1949 年岡山県生まれ。早稲田大学政治経済学部入学、在学中早稲田大学第二次ナイル河全域踏査隊の一員としてアフリカ・スーダンに遠征。帰国後、出版社勤務の傍ら
トルコ、サウジアラビア、タジキスタン、ケニア他の国々に取材に赴く。イスラームの雑誌「アッサラーム」創刊、「ワクフーその伝統と作品」他、編集、出版に携わった書籍多数。

オスマン朝のお賽銭箱

4　オスマン帝国の食の世界　4月10日（金）19:00〜20:30

トルコ料理は、近年、我が国でもある程度知られるようになったが、現在のトルコ料理の源流はオスマン帝国の食の世界にある。
そのオスマン帝国の食の世界を、本講では、その源流、食の作法、食材の調達圏から、料理、デザート、飲み物に至るまで、図像資料をまじえて、
御紹介していきたい。トルコの食について、その歴史をさかのぼることで、一層、興味を深めていただければと思うのである。

参考文献：鈴木董『世界の食文化9 －トルコ－』農文協 『食はイスタンブルにあり－君府名物考－』 NTT出版

講師：鈴木董 すずきただし 東京大学名誉教授 トルコ歴史学協会名誉会員

1947 年藤沢市生まれ。東京大学法学部卒、東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了、法学博士。1972-75 年イスタンブル大学文学部に留学。
1983 年東京大学東洋文化研究所助教授、1991 年同教授、2012 年定年退職し東京大学名誉教授となり現在に至る。オスマン帝国史を専門とし、比較史・比較文化に関心をもつ。

スプーンとフォーク

5　アナトリアのマドラサと社会　5月8日（金）19:00〜20:30

マドラサはイスラームの諸学を教授するために 10 世紀に中央アジアで誕生した高等教育施設です。
アナトリアでは 13 世紀から 14 世紀にかけて盛んに建設されて学術拠点としてだけではなく支配階層の交流の場にもなりました。オスマン朝では国家の統制のもと
教育制度やマドラサ間の序列が定められて行政の一端を担うウラマーの養成がおこなわれました。本講義では主に建築空間からマドラサの実態に迫ります。

講師：川本 智史 かわもとさとし 東京外国語大学国際社会学部特任講師　工学博士（東京大学 2013 年）著書に『オスマン朝宮殿の建築史』ほか

6　都市経済と文化 ―イスタンブルを中心に―　6月27日（土）19:00〜20:30

アジア、ヨーロッパそしてアフリカにまたがる広大な領土を有したオスマン帝国の歴史は、600年以上の長きに及びます。とりわけ、その帝都であったイスタンブルは、
世界各地から様々な人々が集まってくる経済と文化の中心地として繁栄をきわめました。本講演では、こうしたイスタンブルおける経済のありかたと、
それに支えられて花開いた文化の諸相について、とくに16、17世紀に焦点をしぼって解説します。

講師：澤井 一彰 さわいかずあき　関西大学文学部教授　1976年大阪生まれ。博士（文学：東京大学大学院）。専門分野は、オスマン帝国社会経済史と比較食文化研究。
主な著作に、『オスマン朝の食糧危機と穀物供給―16 世紀後半の東地中海世界―』山川出版社、2015 年、水島司編『環境に挑む歴史学』（共著）勉誠出版、2016 年

特別落語 2020年は、エルトゥールル号事故から130年。落語を通じて日・土間の友情に思いを馳せます。　☆ 山田寅次郎オリジナル干菓子（株式会社虎屋製）とお茶付き

7　約束の海 〜エルトゥールル号物語〜　7月9日（木）19:00〜20:30

「約束の海　〜エルトゥールル号物語〜」作品を一枚の布とするならば、春蝶が制作する際に必ず織り込む3本の糸があり、それは「人間愛」「時間の流れ」「死生観」。
1890 年と 1985 年、日本とトルコの間で起きた感動の実話が基になっています。命を救われた感謝の想いは国境を越え、時を越え、語り継がれます。

話：三代目 桂 春蝶 かつら しゅんちょう 落語家　1994年三代目 桂 春団治に入門。初舞台「二代目 桂 春蝶 追善興行」 。2007年なにわ芸術祭奨励賞受賞。
2009年なにわ芸術祭審査員特別賞受賞。2009年 8月30日 松竹座 三代目桂 春蝶襲名披露。9月27日 南座 三代目桂 春蝶襲名披露。これより、全国20カ所で襲名公演を開催。

三代目 桂 春蝶

【オスマン倶楽部会員】 全7 回参加費：12,000円 / サポート会員：6,000 円 / アートパス、オスマン倶楽部2018,19、庭園倶楽部2019 会員、イスタンブルツアー2018,19参加：9,600円
（全7回通し参加）　☆オスマン倶楽部会員は、期間中、ワタリウム美術館への入館が無料になります。

【単回参加】 参加費：3,800 円 /サポート会員：1,900円 / アートパス、オスマン倶楽部2018,19、庭園倶楽部2019 会員、イスタンブルツアー2018,19参加：3,040円

申込方法：【オスマン倶楽部会員】（全 7 回通し参加）もしくは【単回参加希望の日】、氏名、連絡先（住所 / 電話番号 /E-mail アドレス又は Fax 番号）、会員番号（会員の方のみ）をご記入の上、
E-mail:watarium3@gmail.com または Fax:03-3405-7714 へお送りいただくと同時に下記の口座へ参加費をお振込ください。

振込先：三井住友銀行 青山支店（普）1033281（名義）ワタリウム美術館

ご入金いただいた方へ【オスマン倶楽部会員証】（郵送）【単回チケット】（E-mail）にて、開催日 3 日前までにお送りいたします。

●ご入金後のお客様のご都合による返金はできません。　●携帯電話メールは、ワタリウム美術館からの返信が入らない場合がございます。ご注意ください。

WATARI-UM
The Watari Museum of Contemporary Art

お問合　お申込：ワタリウム美術館 150-0001 東京都渋谷区神宮前 3-7-6
Tel:03-3402-3001 Fax:03-3405-7714 E-mail: watarium3@gmail.com　http://watarium.co.jp

TORAJIRO